

流域林業の活性化における間伐材の循環型利用に関する調査・研究

【目次】

序章 課題の設定	第一節 日本における森林資源の概況
第一章 日本林業の再構築と環境問題の現局面	第二節 木材価格の低迷と森林管理問題
第一節 世界の森林環境問題に対する国際的な潮流	第三節 間伐材の循環型利用の必要性
第二節 日本における地球温暖化対策としての森林の役割	第四節 間伐材利用の概況
第三節 低迷する日本林業の現状と林業の再構築の意義	第五章 北海道における間伐材住宅の意義と課題
第二章 戦後の林業構造の歴史的展開と現状・課題	第一節 北海道の森林・林業の現状
第一節 戦後復興期の日本経済と林業構造（終戦以降）	第二節 北海道の地域住宅の概況とカラマツ資源の利用
第二節 高度成長期の日本経済と林業構造（1960年代以降）	第三節 HOPグループにおける「新住宅供給システム」の可能性
第三節 低成長期の日本経済と林業構造（1970年代以降）	第四節 HOPグループにおける流域連携形成の要因と今後の課題
第四節 1990年以降の林業・木材産業が抱える諸問題	第六章 北海道網走地域における流域林業の活性化への取り組みと課題
第三章 戦後の木材市場の歴史的展開	第一節 網走地域の森林・林業
第一節 戦後復興期の木材市場（敗戦以降）	第二節 網走地域における流域林業活性化への取り組み
第二節 高度成長期の木材市場（1960年代以降）	第三節 協同組合オホーツクウッドピアの取り組み
第三節 低成長期の木材市場（1970年代以降）	第四節 佐藤木材工業の取り組み
第四節 1990年以降の木材市場	第五節 北海道網走地域における地域材利用の今後の課題
第四章 流域林業の活性化における間伐材の循環型利用の必要性	終章 流域林業の活性化における間伐材の循環型利用の課題とその発展の可能性

【目的】

今日、地域林業を活性化しようと、各地域において様々な取り組みが行われているが、林業経営においては採算が合わない状況である。そこで、間伐材（地域材）の利用を促進するための取り組みについて再検討するため、地域の中でも間伐材の利用に積極的なオホーツク圏の企業に着目し、現在行われている間伐材の利用を「地域内循環」の視点から考察し、その考察を基に流域林業の活性化の課題について検討していくことを目的とした。

【方法】

研究方法として、第1に文献や資料を用いて環境問題の現状と林業の必要性について考察した。第2に、林業の構造や市場の歴史的な視点からとらえ、林業衰退と森林荒廃に対する政策の経緯について考察した。第3に、林業・森林の健全化を図るために間伐材利用に注目し、利用のあり方について検討した。第4に、間伐材利用の現状を知るため、資料や文献、インターネットを用いるだけでなく聞き取り調査を行い、積極的な活動を行っている企業の現状を考察した。最後に、今日における地域の森林・林業問題を具体化していくために、間伐材（地域材）を住宅に積極的に利用している地域と、住宅利用にまだ至っていない地域を比較し、地域における間伐材の循環型利用の問題点と流域林業の活性化の課題について検討した。

【結論】

今日の流域林業の活性化において、地域材を住宅に利用する取り組みに注目が集まっている。この地域材住宅は、“地域循環”として原木供給から地域材利用までの一連の流れと共に、森林管理においても理想的なシステムであるが、地域住宅を通して流域林業の活性化を図っていくという点においては、まだまだ課題があると言える。流域林業の活性化に向けて、間伐材の利用を促進していく際にはあくまで住宅用材を主軸とし、集成材としての利用を増やすと共に、認証材としての付加価値を加えることが今後必要であり、地域内での利用の強化や原木→製材→加工→住宅の一連の供給体制の整備など、木材の利用量を安定させる効果をもたらす諸活動—例えばHOPグループのような—と平行させながら、間伐材の循環型利用に取り組んでいく必要があるという結論に達した。

【主要参考文献】

- 鷲尾良司・奥地正編『転換期の林業・山村問題』新評論 1985年
船越昭治編著『森林・林業・山村問題研究入門』地球社 1999年
村山由直著『森と木の経済学—持続可能な社会発展を目指して—』日本林業調査会 2001年
半田良一編『林政学 第3版』文永堂出版 2003年
黒瀧秀久著『日本の林業と森林環境問題』八潮社 2005年